

開催に際して

アスタキサンチンの現状と未来

アスタキサンチンは、強力な抗酸化物質であるばかりでなく、アンチオキシダントではあってもプロオキシダントにはなり難いこと、血液脳関門を通過できることなど特徴的な性格を有し、基礎研究対象としてもまた機能性食品（ヘルスフード）としての応用としても、興味の尽きないカロテノイドである。

アスタキサンチン研究会は5年目を迎え、発足以後も基礎と応用の両面の研究の進展は著しく、特に生理機能に関する論文は非常に増加している。今回も14件の研究発表と特別講演（前年度のアスタキサンチンAWARD受賞者の義務）が用意されている。純粹基礎研究は極めて重要であり、今回の発表においても興味が惹かれる。またその応用やヒト臨床試験のエビデンスも多岐に亘り発表されている。今後もますますアスタキサンチン研究の進展が期待できるものと考えている。

ヘルスフード科学研究（機能性食品研究）の視点からは、アスタキサンチンのヒトの健康維持や疾病発症予防、あるいはスポーツ機能や美容に関わる QOL（生活の質）改善にエビデンスの蓄積が見られ、またアスタキサンチンの知名度が漸次上がってきているは、喜ばしい事といえる。これらを背景に、国民のアスタキサンチンに対する認識をより高めることが、行く行くその市場性の拡大に繋がるものと考えられ、その事が国民の健康維持と関連産業振興という社会貢献に繋がるものと確信している。経済状況や社会状況が不安定な時代ではあるが、国民の関心事は健康である事に変わり無く、より関心が高まると思われる。このような時代だからこそ、産業界・学術・医療・官僚・政界・経済界などが手を組み真の国民の健康福祉に貢献する必要があると考えている。アスタキサンチン研究会としても何か行動を興すべき時が来ているのかも知れない。

皆様には、研究会発表にて有意義な時間を過ごしていただき、また天王洲アイルでの懇親会では十分お楽しみ戴きたい。

本会開催にあたりまして、ご尽力戴いた関係者各位に感謝の意を表する。

2009年9月吉日

第5回アスタキサンチン研究会会長

矢澤一良

東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究所
ヘルスフード科学（中島董一郎記念）寄附講座